



学校教育目標 社会に貢献しながら、  
自立する生徒の育成  
～気づき、考え、実行する～

# やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある  
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための  
「連携・協働」の推進



## 環境は人をつくり、 人は環境をつくる

私は、研究会等で他の学校を訪問することがあります。そんな時、校舎に入ったただけなのに、誰とも会話をしていないのに、その場（学校）の雰囲気を感じることがあります。そこで生活している児童や生徒の様子も想像でき、明るい気分になります。その逆の場合もあります。

学校経営の指導重点の1つとして「居心地がよく、やる気のある学級集団・学校づくり」を掲げています。私たちのどのような働きかけが、生徒の居場所づくり、やる気の高揚につながるのか、日々考えながら、指導や支援を行っています。これは、家庭教育でも重要なポイントではないでしょうか。

例えば、テストの結果を見せてくれた我が子に対して「すごいね」「よくやったね」「勉強した成果だね」「次、頑張るね」と声をかけるか、「いつもこうだといひだけだね」「こんな簡単な問題、なぜ間違っただの」「ひどい点数」と声をかけるか…、叱咤激励もあるでしょうが、やる気のモチベーションは、だいぶ異なります。その声かけは、我が子の能力を最大限に発揮できるものになっていますか。

話は変わりますが、最初は「まだまだ力不足」と感じられていた生徒が、どんどん成長していく場面を目にすることがあります。その環境で、何とか努力を続けていくうちに、不思議なことに、いつの間にか、その場面や立場にふさわしい成長を遂げます。



← 歯みがき教室 六月二十三日

ただ、誰もがそのように成長するかといえば、そうではなく「自分は環境に恵まれていない」「努力しても何も実らない」と嘆く場面も目にします。確かに、自分の思い通りにならないことは、多々ありますが、何か（変化）を待っているだけではいけません。自分で環境を変えていく努力が必要です。

最初を起こす**小さな変化**が次につながり、最終的には**大きな変化**につながるのです。そのお手伝いは、大人（学校や家庭）の役目です。

## 学年担当制

### ～ 本校の指導体制 ～

本校では「学年担当制」を導入し、生徒の指導や支援をしています。これは、担任を1人に固定せず、複数の先生でクラスを担当する指導体制です。

その理由の1つとして、本校教職員の人事異動の影響があります。毎年、年度末人事異動により、本校では、半数程度の先生が入替わります。

そこで、複数の先生でクラスを担当することとし、同一学年には、本校に2年目以上継続して勤務している先生と、1年目の先生に担当してもらうようにしました。生徒の不安等を少しでも和らげるとともに、複数の先生が、多面的な生徒理解を通して、生徒を見守ることで、個に応じた指導や支援の充実につながるのではないかと考えています。

これまでの「固定」した担任制では、学年（学級）のすべてを、1人の先生に委ねる面が強く、生徒や保護者にとっての学級の居心地具合は、その先生に左右される傾向にありました。

「学年担当制」では、給食や道徳の時間、総合的な学習の時間等において、今まで以上に、複数の先生が生徒と関わります。多くの先生との関わりを通して、自身の価値観を広げられます。自分が相談したい先生に、より気軽に相談することができるようにもなります。本校では、月2回程度、「きずなの日」を「相談の日」と称して、生徒の希望により、どの先生とも相談できる取り組みも行っています。

